

# 東京大学URAネットワークシンポジウム『99新たはURAがつたはくネットワークによる研究力強化の未来』総合討論



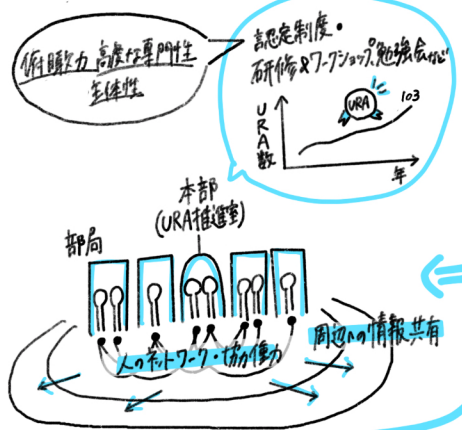
齊藤氏  
橋爪氏

東京のURA目標100人  
1人のURAが約50人の  
研究者を担う規模

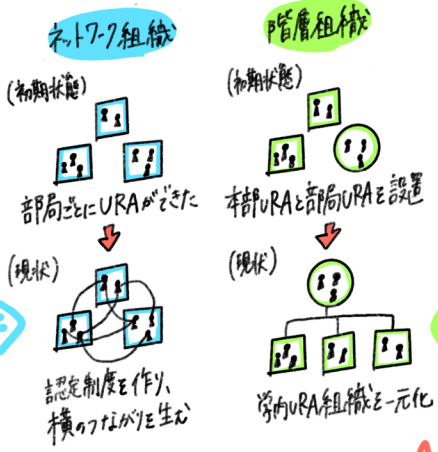
東京は部局が強いのが特徴  
部局の壁は必要  
壁があることで連携  
が促される



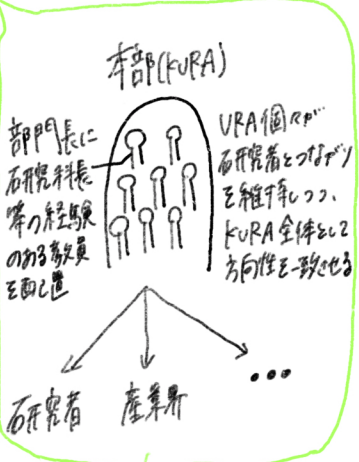
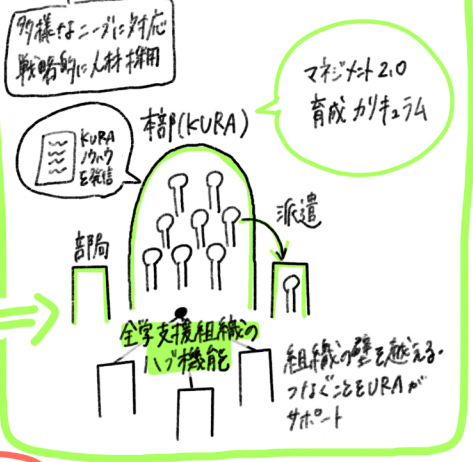
東京大学URAの特徴  
部局分散型  
ボトムアップ的施策



あちゆる組織はネットワーク URA



東京大学URAの特徴  
全学一元化体制  
全学的な施策



Pros  : 全体への不確実性に  
柔軟に対応

Cons  : つながりが弱い

Pros  : 合理性・効率性  
リーダーシップ

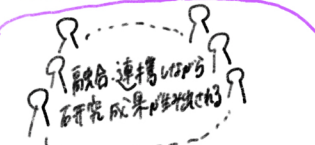
Cons  : 縦割・柔軟性△

ローカルなコンテストを促し、  
両方の良さを変化させることが重要

異なる問題。  
相対的な位置づけが重要。  
[壁]は距離感の維持

## 信頼問題の帰着

Q. URAの組織内での  
当初の目標は達成? 何故?



法人化後、大学自身が企画機能  
→ 産業界と連携する中で  
従来の専任制を打破し、  
URAを議論の場として  
産業界と連携する重要性

Q. 現在のうちネットワークを  
保持する必要があるのか?

URAの柔軟性への安定性を  
維持することが大切。

Q. to 伊藤氏

1. どの組織を規定している?
2. ロテーションをどうする?

A1. 大学全体での研究支援職の  
整理はこれから。

A2. KURA内のローテーションは、  
その環境が変化する  
のがヤバい。

Q. URAの職能をどう  
信頼の組織に所属させる?

組織の中で、個人が  
自分のスキルを  
アピールできる  
仕組みを作る

URAスキルの認定  
機構の  
あり方と認定  
制度の  
意味、  
改め  
の理解

認定が  
あると  
信頼が  
担保  
される  
必要  
だが  
認定  
の  
外  
に  
関係  
する  
必要

Q. URAの人材育成環境整備

様々な  
環境  
整備  
が必要  
な  
こと  
が  
多い  
こと  
が  
多い  
こと  
が  
多い

大学組織を  
考える  
環境  
整備  
は  
重要  
な  
こと  
が  
多い  
こと  
が  
多い

コロンビア  
大学  
の  
環境  
整備  
は  
重要  
な  
こと  
が  
多い  
こと  
が  
多い

研究者とURAの  
相互の  
理解  
を  
深  
め  
る  
こと  
が  
重要  
な  
こと  
が  
多い

その  
中で  
、  
1  
人  
が  
一  
人  
に  
集  
ま  
る  
こと  
が  
重要  
な  
こと  
が  
多い